

## 令和4年度 第3回 岐阜市住民自治推進審議会 会議録【概要】

- 1 日時：令和4年12月27日（火） 午前10時00分～12時00分
- 2 場所：市庁舎6階 6-3 会議室
- 3 出席委員：11名 石原委員、市村委員、上松委員、大塚委員、金子委員、菊本委員、桐山委員、篠田委員、清水委員、高木委員、安田委員
- 4 会議の公開の可否および傍聴者：公開 傍聴者0名
- 5 次第
  - 1 議題
    - (1) 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（答申案） 【資料1～4】
    - 2 その他
- 6 配布資料

### <資料>

- 1 パブリックコメント手続の結果について
- 2 「岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（案）」に対するご意見とそれに対する岐阜市の考え方
- 3 協働のまちづくり推進計画 答申書（案）
- 4 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（答申案）

### <参考資料>

- 1 パブリックコメント手続に合わせ実施した施策シール投票の結果について
- 2 【概要版】岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（案）

## 【会議内容】

### <開会>

#### 1 議題

- (1) 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2023-2027（答申案）について

## 事務局

（資料1～4を説明）

## 委員

パブリックコメント手続のシール投票の様子を拝見したのですが、グループで一緒に検討して貼っている。こういうことが話し合えるきっかけ、またそういうことができる場所になったのが非常に大事なことだと思います。統計上にとるだけではなくて、その状況が非常に良かったと感じました。

生涯学習がよくここまで育ってきたと思うのですが、まちづくりのほうに連携していない、つながっていないと感じます。

高齢化社会だ、少子化だと言いますが、高齢化=悪という論点での風潮が結構多いです。けれどもこの人を若者と組み合わせたら成果が出ると思います。行動面は高齢者として難しい面もあるかもわからないですが、そこに若者をどう加えていくかがこれからの大きな鍵になってくると思うの

で、その辺りの連携をどうとるか工夫を重ねて行ってはどうかと思っています。

## 会長

生涯学習をしている多くの方は高齢の方ですが、その方自身が生き生きとするのがまちづくりなのではないかというお話と、さらにまちづくりにつなげていくためには若者と一緒にやっていくという仕組みが必要なのではないかということでした。

## 委員

生涯学習の点で若者とお年寄りをつなげるという点で推進していく必要があると思います。それに加えて、生涯学習の役割として主にやっている人は、生きがいつくり、もう一つはまちづくりの人材育成として、推進していくような生涯学習というのがあると思います。

シビックプライドの醸成による施策の中で、まちづくりの担い手の育成という観点が非常に重要だと考えており、そういった点では子どもと大人や若者に特化した生涯学習を取り入れていくというのも今後重要になってくるのではないかと考えています。長良川大学に子どもや若者向けのシビックプライドを育てる、地元への誇りや愛着を育てるような子どもや若者に特化した生涯学習を提供していく必要があるのではないかと考えています。

## 会長

このあたり、長良川大学のプログラムというのとはどんな形で作っていますか。誰がプログラムを作っていますか。

## 事務局

プログラムにつきましては、各担当部署で講座を企画しています。

## 会長

各担当部署ということは、市役所の職員の方が作っているということでしょうか。

## 事務局

一部はそうです。あとは大学などの関係機関にも照会をかけて、来年度どういったことをやられるかということをお聞きした上で一冊のガイドブックにまとめています。

## 会長

その時に長良川大学としてこういう方針でやりますということなど、方針を決定するのは市の内部でやっているということですか。

## 事務局

そうです。

## 会長

ご意見の中で若者や子どものプログラムがないので、やった方が良くのではないかとということなのですが、それはできますか。

## 事務局

生涯学習センターで中高生向けのボランティア講座のようなものは現状も企画してやっています。そういった中高生のボランティアを地域活動につなげていくような仕組みは一応作っています。

## 会長

子どもたち自身が何かやりたいという企画ができたり、それが実行できたり、まさに子どもたち自身から、中学生は本当にまちづくりの担い手になれると思うので、そういう講座があるといいと思います。地域と連携したような、子どもたちが企画をして、地域の中で実行していけるようなそういうプログラムができていくと、子どもたちが手伝いだけではなく、まちづくりの担い手となることが必要ではないかと思います。

## 委員

まちづくり養成講座そのものが、ある程度形式化しているのではないかと思います。実際、まちづくりで、地域でいろいろな事業をやり、努力している人を講師に呼んでみるとか、どうしてそういうイベントを構成するとか、そういうようなことを具体的にお話ししたほうが、地域の方も理解しやすいのではないのでしょうか。中学生のボランティアをそこに参加させたり、小学生も一緒に事業の体験をさせたり、市で勉強してやってみえるわけですから、実践者の話を聞いてもらうようなことを今後やっていただけたらよいかと思います。ただプログラムを組んで講習を受けて養成講座をして終わったら修了書を出すだけではなく、ひと工夫していただけたらと個人的には思います。

## 会長

委員からいただいたクリーン作戦とけやき祭りのような連携したプログラムがありますので、まさに事業を企画するなどをやったらこういうものが実現をしていくということ、そういう部分のところが非常に大切だと思います。私も大学生向けに「まちづくりリーダー入門」と、「実践」という授業をしていて、「実践」というのは目的型コミュニティです。企業が中心でそこに3人くらいの学生が入って、実際にいろいろな企画をしたり、実行したりということを8チームでやっているのですが、そういう形でやっていく必要があると思います。このあたりをぜひ実現をしていけたらと思いますのでよろしくお願いします。

今まで生涯学習の講座はどうしてもインプットが中心ですが、時代はアウトプットなので、どうやったらアウトプットができるかということが重要です。小学校の教育の課程もそういうところにシフトしてきていて、中高はどうしても受験になってしまうので、知識インプット型からなかなか脱却できないのですが、それでもアウトプットが非常に重要だということで、そういうことができるような教育のプログラムが必要だと思います。

## 委員

長良川大学のほうで地域のコーディネーター育成講座をやっていると思うのですが、今回パブリックコメントの中でもまちづくりコーディネーターを配置してはどうかということがご意見で出ており、せっかく長良川大学で講座を作って養成をして、修了認定書を出して、その先コーディネーターとしてどう活動のほうに持っていくかというときに、もともと地域にいろいろなやっっている方が、こういう講座にも参加をされていると思うのですが、実際のプロセスに結び付けていくことが大事だと思うので、パブコメへの回答も検討するというのではなく、すでに長良川大学の講座でもやっているので、それをどうやって実践に結び付けていくかという回答ができるのではないかと思います。少しパブコメが「変更なし」という回答ばかりになってしまうと、せっかくパブコメでご意見をいただいている方に推進計画へのいただいたご意見への一部反映というのがあってほしいと思ったりするので、その辺り、回答できる範囲であれば、既にやっていることの中で実現できそうなことについてはぜひ考え方のところに入れていただきたいと思います。

## 会長

今の中でも、読み取れるので、そここのところを、上手に回答を書く。ここでこういう形になっていますとか、運営の中で実現していきますというふうによりわかるように書いた方が良くと思います。委員がおっしゃったように人材育成をしている人たちが、まちづくりの現場で活躍できるとかコーディネーター役になるというところが重要だと思うので、その仕組みづくりのところはいろいろなところで推進をしていかなければいけない部分だと私も思います。

## 委員

個人情報という問題があるので難しいが、修了証を貰った人が各校区に散らばっているとすれば、そういうのを地区に公表していただければ、困っている地区と担い手と結びつけることができると思います。

## 委員

長良川大学の生涯学習に私も何回か参加させていただいて、現実それをどこでどう発表して、どうつなげたらよいかというのはよくわからないので、確かに講師のほうもかなりマンネリ化している。また、若い人は刺激でもって動くわけですから、刺激のあるパンチのあるものをどんどん打ち出していくことが大事ではないかと思います。まちづくりというのは人間の躍動ですから、躍動しなければ何にもならないと思います。

美濃の資質・性格は必ず一歩引いていつでも逃げられる体制でもって相対しているというところが大きくみられます。美濃の資質から見るとどうしても、もう一歩を踏み出そうというところがないわけです。そういうところを踏み出せるような体制を作るためにも、パブリックコメントの中ででてきた「まちづくり協議会と自治会とどう違うのか」というのがありますが、これも推進計画の24ページに明確に示されており、理解を促進することを打ち出していただきたいと思います。

## 会長

新しいことをしていく姿勢は必要かと思います。

## 委員

高齢者大学は何年も続いているのですが、その内容にまちづくりに関連する内容が一つもないです。同じ行政の組織の中でも発案される企画の中にまちづくりの内容が盛り込まれていないというのは、行政の中の連携プレーが欠けているのではないかと思います。

PR方法について、岐阜市には立派な広報誌が毎月参りますが、まちづくりの情報も知らない人が多いです。たまにある資料を見る人はわかるのですが、誰もがもっと簡単にそういう情報がいただけたらという感じが常々しています。そういう意味で広報紙の半面だけでもいろいろな実績・活動を載せていただいたら、もっと広く皆さんに伝わるのではないかと思います。

## 会長

高齢者大学というお話があったのですが、これはどこの局がやっているのですか。

## 事務局

高齢福祉課です。

## 会長

ぜひとも連携していただきたい。広報紙にまち協の活動を伝えてもらえるスペースというのはあるのですか。

## 委員

ほんの一角に載っています。正直行って大変見にくい。

## 会長

もっともっとスペースを使って、色々な活動がされているので、こんな街づくりの活動がされましたという感じで。これもまさに実行していくときに実現をしていっていただきたいと思います。

## 副会長

今年初めて小学校の運動会と自治会の運動会を同じ日にさせてもらいました。今回初めて提案してやったのですが、あとでいろいろ聞きますと合同でやったのはよかったと評判がありました。

中学生と連携するというのは、私たちの地区では、少し寂しい。いろいろな行事などをやるときにボランティアを募集するのですが、積極的にやってくれないようなきらいがあります。そこを何とか盛り上げたいと今考えています。

## 会長

地区ごとに学校との連携は非常に大切な所だと思いますし、子どもたちや若者とまちづくりをリンクさせていくためには地域でつなげる必要がありますから、合同運動会はすごく素敵です。

中学はどうしても、今までだとボランティアというのは資源回収のお手伝いなど、そういうくらいにとどまっているので、もっともっと中学生はできることがたくさんあって、企画もできるし実行もできる。そういう機会をぜひ、学校の中ではなかなかそれはできないと思うので、そこは地域と連携をしてそういう機会を作っていく必要があると思います。

## 副会長

中学校の活動の中で、高齢者宅訪問というのを行っています。うまくいっていない部分があり、なかなか難しいと思っています。

## 会長

ぜひ中学生の企画・実践ができる場を各地区で作ってほしい。本郷のけやき祭りの時は子どもたちの企画をやっておられると思います。

## 委員

けやき祭りの日を小学校では日曜授業にしてもらって、1時間くらい授業をして親子で参加してもらって、中学校もボランティアで多くの方に参加してもらい、祭りの支援をしました。中学生もそういうことには生き生きしてくれるので、事前に学校と話し合いをしています。小学校も中学校もカリキュラムがあるため1年くらい前から日にちを決めるとか、そういうことはありますが、非常にご協力をいただいてありがたかったです。

## 会長

こういう事例を皆さんから知れるといいです。急遽欠席になった委員からご意見をいただいておりますので事務局のほうからご紹介いただけますでしょうか。

## 事務局

(1つ目の質問について)

資料2 市民意見の中に「非常勤の特別職」とありますが、岐阜市は名古屋市でいう区政協力委員制度のような「行政協力委員制度」は置いていないのでしょうか。置いていない場合、純粋に無報酬で様々な依頼業務を委ねているのでしょうか。なお、全国的には福岡市の町世話人制度の廃止をはじめ、行政協力委員制度の見直しが進んでいます。ただ、岐阜県内でも小さな町村ではまだ区長制度が残っているように思います。

回答としては、自治会長については無報酬です。

## 副会長

自治会長の話ですか。連合会長ではないですか。

## 事務局

ここではそこまで詳しくは書いていないので、どちらかがはっきりしません。連合会長も無報酬でやっていただいております。岐阜市には行政協力委員制度等というのはありません。

## 事務局

(2つ目の質問について)

資料2 公民館に関する意見がいろいろ出ていますが、公民館主事と地域担当職員との関係はどのようになっているのでしょうか。役割分担や連携の実態などをご教示いただけますと幸いです。

回答としては、公民館主事は、公民館の事業運営に関する管理運営を行うための事務などを担う役割です。一方、地域担当職員は地域の会議に参加して実際に情報交換をして、所属部署のつなぎ役であるとか、その他よろず相談、そういったことを担うことを目的として整備したものです。

## 会長

公民館主事は、公民館自身が教育委員会から市長部局に変わりました。それで公民館主事の役割というのは変わったのですか。

## 事務局

基本的な部分は変わっていません。

## 会長

たぶん役割を変えるために市長部局へ移したのだと思います。まちづくりのコーディネーター役に期待があると思うので、そういう役割ということを確認にしていけないと思います。少し言い過ぎかもしれませんが、公民館主事の役割というのはまちづくりのコーディネーター役になっていただく、公民館を市長部局に変えたというのはそういうところもあると思います。また、市の担当職員と連携をしなければいけないと思います。まち協とも連携をするということも当然ですし、公民館でやる生涯学習もまちづくりの人材育成やまちづくりの企画等、実践をやっていくようなプログラムが公民館のプログラムの中に必要だと思います。市全体でも必要だと思いますけれども、地域でそういうことをやられないと結局は各地区では実行できていけない。そこはぜひそういう形にさせていただきたいと思います。

## 委員

岐阜市では地域担当職員があります。岐阜市には、50 地区あるのですが、現実として機能しているところと機能していないところがあります。

中間のコーディネーターであるまちサポの位置づけも、インプットはどんどんやっているのですが、地域に出向いてのことがないので、もっと具体的・実践的に色々とコーディネートする人がいるのではないのでしょうか。人材育成の面からも切実に思います。まち協も 44 地区になったのですが、これも地域差が大きすぎる。まち協も作ったらどうなるのか、どうするのかという市の展望をもう少し出してもらって、ただ「まち協を作りました。」ではいけないと思います。

それから中学生のボランティアのことが出ましたが、私どもも最近はお祭りとかごみゼロとかに子どもたちがたくさん出てきて、大変喜んでやってくれているのでこれは本当に良いことだと思います。学校との連携をしっかりとやって、学校のほうも積極的にやってくださっていますので子どもたちが地域に参加して喜んでやってくれます。

地域に出向いたまちづくりのサポーターを地域ごとに作っていただけたらと思います。

## 会長

地域担当職員の役割がうまくいっているところは「こういうふうによくいっている」ということをもう少し情報共有する場があったらよいと思います。あるいはまちサポ自体がもう少し地域のコーディネーターの人材を育成するようなそういう事業をして、プラス学校等の連携も併せてできるようなコーディネーターを置いていく、そういうところが必要なのだと思います。

## 委員

連合会長なり公民館長が携えて同じまちづくりをするのだという意識をしっかりとって、お互いに同じ気持ちを持つようにしていかなないとまちづくりなんかできるわけがないと思います。公民館も本当の活用ができないと思う。

## 会長

その辺りは先ほど発言しましたが、公民館主事としての役割分担を明確にしていかなければいけないと思います。まさに今回のところのご意見だと思います。

## 委員

公民館主事の方は地域のことをよく知っているので、人材育成として公民館主事の研修とかで、コーディネーターの人材育成をしていただければと思います。

子どもの関係ですが、学校は地域に対して遠慮していて、地域は学校に対して敷居が高いというふうによく言われるのですが、学校については総合的学習の時間に子どもたちに「地域を知ろう」というのがありますので、学校とコミスクの中で連携をしていただければと思っています。社協のほうも学校と地区社協の連携ということで、藍川と岩野田北でそういうことを始めていますので、そういったことを含めてまた報告できたらと思っています。

## 会長

コミスクも、今までだとどうしても地域の方が来て子どもたちが学ぶというくらいのインプットなのですが、全コミスクの子どもたちが企画をして、地域の中で自分たちが担当していくというようなコミスクになっていくといいです。

## 事務局

(3つ目のご質問について)

資料 4 16 ページに職員のファシリテーション能力の向上がありますが、そもそも岐阜市役所の内部においてワークショップやワールドカフェを受け入れる素地が整っているのでしょうか。自治体の中には幹部職員がワークショップには否定的で、いかにして波風立てず無難に市民の声を収めるかを重視する人もいないわけではありません。いくら個々の職員のファシリテーション能力を向上させても、全庁的にワークショップを受け入れる素地や体制が整わない限り、次のステージには進みません。ワークショップやワールドカフェを受け入れ、その声を施策事業に活かしていく体制

づくりについて、具体的にどのような対応が想定されているか、ご教示いただけますと幸いです。

回答としては、本審議会にて計画の進捗の報告をさせていただいていますが、その中の市民との協働、市民参画手法のご報告の中で、意見交換会、ワークショップ、住民説明会を庁内でどのくらい実施しているかご報告しています。

## 会長

部局ごとにオープンで市政に対して意見を貰うような、そういう場を作ったらよいのではないのでしょうか。学生や民間の方も交えて、行政と民間と大学で議論を行うことがよい提案につながっていくと思います。

## 事務局

(4つ目のご質問について)

資料 4 16 ページの上記部分に関連して、職員のファシリテーション能力とともに、市民のファシリテーション能力の向上も重要になります。これは長良川大学などで対応できそうですが、現状において何か対応はなされているのでしょうか。静岡県牧之原市では市民ファシリテーターの養成に力を入れ、彼らが総合計計画の地区別計画づくりなどで活躍しています。中学生ファシリテーターの存在も聞いたことがあります。

回答としては、ファシリテーターの養成講座についてはまちづくりサポートセンターにおいて、長良川大学の地域マネジメント学部にも該当する講座があり、話し合いの技術というもの、ファシリテーション能力を高める講座を開催しております。今年は4回の連続講座で、講師に岐阜県のコミュニティ診断士の方にお越しいただいて、実際にワークショップを体験していただきながら実践講座をしています。

## 事務局

(5つ目のご質問について)

資料 4 16 ページの上記部分に関連して、以前に岐阜県庁の仕事でコミュニティ診断士の研修を担当しました。コミュニティ診断士は岐阜市内にも何名かおられると思いますが、こうした県の取り組みとの連携可能性は、何か存在しないのでしょうか。

回答としては、先ほどの説明のとおりです。

(6つ目のご質問について)

資料 4 、 22、 23 ページに関連して、「負担感の軽減」とあります。これは「負担の軽減」ではなくあくまでも「負担感の軽減」なののでしょうか。というのも「感」が入ると感じ方の問題となり、それは個人個人で違いがあるので、地域の側の事情に起因するというロジックに収斂してしまうのではないのでしょうか。この依頼業務の多さによって生じる地域負担の軽減は、市行政としてしっかりと向き合うべき内容となります。細かな話ですが「負担」とするのと「負担感」とするのでは、市行政としての対応も変わってくるかと思しますので、このあたりの認識をお伺いしたいです。もちろん、25 ページに業務棚卸や依頼事項の整理についても書かれているので、庁内の対応があるものと認識しています。ちなみに、こうした見直しは現在、川崎市が全庁的に依頼業務の見直しのガイドラインづくりを進めたり、イベントの動員を止めたり、委嘱の依頼時期を年2回にまとめたり

と、いろいろ工夫をしています。

回答としては「負担」に修正します。

## 会長

従来通りの組織体制になっていて同じ課題を複数の組織が解決していると思うのですが、棚卸をしていって、地域の課題ベースのところ組織づくりを含めてやっていくということは、今回の推進計画の一番基礎だと思いますのでそういう部分で、提言という形にできればと思っています。

## 事務局

(最後の質問について)

資料 4 24、26 ページには、上記に関連する負担軽減施策を明記したり、成果目標を設定したりすることはできないのでしょうか。できない場合、結局は問題の先送りになるのではないのでしょうか。

回答としては、地域にどれだけの事業をお願いしているか、重複している部分を調べて整理してこうということですので、現状の把握をまずさせていただいてということですので。今後、審議会等で進捗状況の報告はさせていただくということをお願いしたいと思います。

## 会長

数値目標までは難しいかと思っています。しかし、この部分は根幹のところなので、市側としても地域に依頼をしているものについて整理をして、自治会、あるいはそれ以外のいろいろな組織、仕組みがあると思います。いまだと一人の方が三役、四役こなしているところもありますので、そのところは整理をしていって、課題に合わせた形で組織を見直すことが必要かと思っていますのでその方向性が示されているとよいと思います。

## 委員

懇話会にまちづくりのコーディネーターという方がいらっしゃったら参加してもらって、そこでいろいろな意見をしてもらおうと、実効性があるのではないかと。というのは懇話会で各種団体の長の話の中で、「落ち葉がたくさん落ちるので困っている」という話をしたら、本郷の落ち葉の祭りの事例を示されて、それで私も落ち葉で焼き芋大会をやったのです。ある地域のこういうところではこういうことをやっていますと言い合える場が大事だと思います。

## 会長

まさにそういう場が地区ごとに必要です。ぜひ地域担当職員の方、公民館主事の方も入って、まちづくりのテーマで話すことができると、キックオフ的な話になるのかもしれないです。

## 委員

岐阜市国際交流協会では外国人の方に日本語学習をサポートして、日本人の方に外国の文化とかそういうものをお互いに交流させることを目的にいろいろなイベントをやっております。しかしながらなかなか参加者が増えてこない。結局これは委員がおっしゃった PR の方法にあるのかと思います。

ます。

パブリックコメントに関してはシールの投票、たぶんたまたま通りかかった方がこれを見つけて実施された。ここで投票をやっているということをもっともっと周知できればもっと多くの方が参加していただいて、もっと多くの意見が得られたのかなど。そしてそのシールの結果を見ましてもいろいろな事業に参加したいというお答えがある方が非常に多いということにびっくりしております。特に若い方、19歳未満の方でも講演や説明会に参加したいという意見が多いということは、そういう機会を知らせていただいたら私たちも参加したいということをおっしゃられるのではないかと思います。要するにPRの方法を考えて、広く周知することによって、本当に多くの方に参加していただける。私たちのやっております事業につきましても、いかにPRをして多くの方を巻き込んでイベントをやっているかというのを一番の課題にしておりますけれども、まず、一番大切なのはPRではないかというのを感じました。

## 会長

外国人の方に、まちづくりに関わっていただくというのは雇用主の責任があると思います。外国人の方も地域とのかかわりを持っていただくためには、企業からのアプローチが必要ではないかということと、まちづくりの中に企業との連携をしていくという部分を進めていくとより人材も増えますので、進んでいくのではないかと思います。

## 委員

まちづくりに携わっているのは私のところでは高齢者が多く、学校のほうから昔の話などということで3年生の社会科の時間に私も20年間ずっと教えてきました。今の子どもたちが昔のことを本当に何も知らないのです。また、学校と地域のつながりとしては、小学校1年生にお米作りや枝豆作り、サツマイモ作り、大根作りをやっています。親もスーパーにある真っ白な大根しか見たことがないので。これもみんなに話しかけて一人でも多くの人に農作業のことも知っていただきたい。これも高齢者が主になってやっていきますけれど。これからの若い人にどうしたら続けていただけるのかなと思っています。

## 委員

自治会の加入率が気になっているのですが、この15年で11.5%減っています。毎年、下降線をたどっているわけです。このままで本当にいいのかどうかということですが、自治会の加入率が56.9%で60%を切っているということは、ごく一部の人の意見で町内や岐阜市が動いていくというような形になってしまうと、本当にみんなが納得していける岐阜市となっていくのかという先の話に非常に危惧を感じるわけです。

地域の輪、地域の行事の発展ということを考えますと、どうしても自治会の加入はしていく方向で、できるだけ協力していくということが大事ではないかと思います。この辺についても一度よく考えていただいて、地域の協力を得ながら自治会の加入率が増えるような自治会の魅力、岐阜市の魅力を高めていく方向性で考えて行っていただければと希望します。

## 会長

自治会の加入率は、率自身のトリックみたいなどころもあって、今どんどん世帯数が増えているので、分母が増えています。その影響で下がっているように思われるのですが、どこかで示されていましたが実態的には70%くらいあるのではないかというような、市もそういう印象で思っておられるみたいです。それくらいが実態でないかというのはあるようです。

とはいえ皆さん自治会に入っていただきたいし、それがまちづくりの担い手になるためにも一世帯一世帯に自治会に入っていただきたいというのがありますし、一方で集合住宅の場合は、地区によってはオーナーさんに自治会費を出してもらっているところもあります。そういう形で自治会に加入をしていただいているという地区もあつたりします。色々な工夫がそれぞれありますので、そういうところを共有してよい方法を見つけていくことが一つあるかと思います。

## 副会長

昔は3世代同居ということだと一世帯ですから、それが独立していけば数としては増えるので、一戸建てのところは自治会に入ってみえるのですが問題はマンションやアパートです。自治会に入っていると役員が回ってくるということで、時間を割かないといけないのでその辺が負担に思われているのかと思ったりもします。

## 会長

役員をやりたくないから自治会に入らない。子ども会でも5年生、6年生になってくると児童会の役員をやらないといけないから児童会を抜けるというようなことが実際に起こっているので、その辺り非常に課題ですが、それも含めて組織の見直しが必要でないかなと思います。今は共働き世帯が増えてきているのでそういう状況の中で皆さんができる範囲の中でまちづくりに参画していくというそういう形を作っていくということが一つあるかと思しますので、その辺りが必要かと思えます。

一つだけ冒頭のところから気になっていて、シビックプライドのことなのですが、9ページに書かれている2番目の項目はまさにシビックプライドの項目です。「まちを愛する人々が磨き上げる個性と魅惑にあふれた共同社会の確立」、ここの中の文章ですとこれを活用し、「築き上げる郷土愛にあふれる社会」と入れたのですが、これはまさにシビックプライドの話になっているので、シビックプライドという言葉が出てきたのがまだ最近なので、できたらここにはシビックプライドという言葉を入れた方が良いのかなと思います。最初はシビックプライドが何かということがよくわからないというところもありますが、それでも市の方針としては、シビックプライドを一つの柱としておりますので、キーワード自身は追加ができるのならした方が良いかと思しましたので、その辺り入れるような形で修正をお願いしますでしょうか。

## 事務局

了承

## 会長

本日予定をされました審議事項は以上となります。

## <閉会>